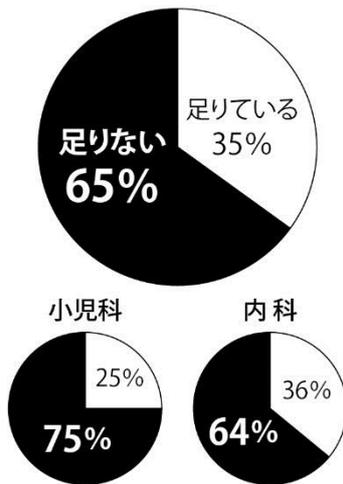


小児科 75%が不足 ワクチン不足を繰り返すな!!

会員緊急アンケートを実施 インフルワクチン6割超が「足りない」

協会会員から「インフルエンザワクチンの入荷が遅れている」、「協会として供給の実態を調査してほしい」との要望が寄せられたことを受け、協会地域医療部は、10月17日に会員3,510人（小児科、内科等）に「インフルエンザワクチンに関する緊急アンケート」を送付し、10月27日までに都内744件の医療機関から回答を得た（回収率21.19%）。

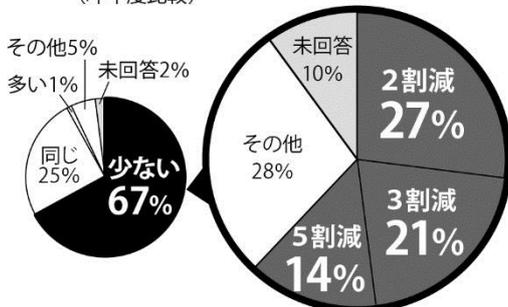
図1 インフルエンザワクチンの在庫(全体)



集計の結果、小児科の75%、内科の64%が「インフルエンザワクチンが足りない」と回答、全体では65%が「足りない」と回答した（図1参照）。

昨年度の納入量との比較では、「少ない」が67%に達し、「同じ」の25%を大きく上回った。また、「少ない」と回答した会員にその割合を訊いたところ、「2割減」27%、「3割減」21%、「5割減」14%が上位を占めた（図2参照）。

図2 インフルエンザワクチンの納入量(昨年度比較)



●回答の7割「例年通り接種できず」

インフルエンザワクチン接種希望者への対応では、「ふだん診ている患者を優先し、新規希望者は断っている」21%、「定期接種の高齢者を優先している」14%などが続いた。何らかの問題があるとの回答は約7割に及び、「例年通り接種できている」は33%にとどまった（図3参照）。

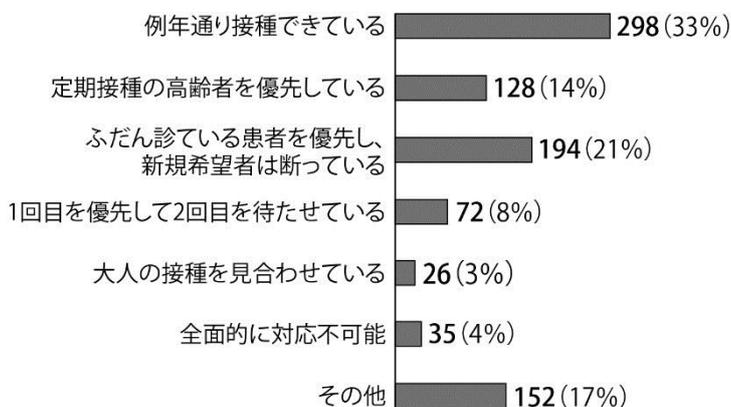
●「予約システムが崩壊」会員から怒りの声

「入荷の見通しが立たず、ネットの予約システムを停止させた。予約いただいた患者さん一人ひとりに断りの電話を入れた」、「ワクチン不足がこれほど頻繁に

発生するのは異常だ。国が責任を持って安定供給すべきだ」など、アンケートには会員から怒りの声が数多く寄せられている。

図3 インフルエンザワクチン接種希望者への対応(複数回答:件数)

※調査期間:2017年10月17日~10月27日



●ワクチン不足を繰り返すな!

インフルエンザワクチンの供給不足はこれまでもたびたび発生し、ワクチン接種を希望する国民が接種できない事態を招き、医療現場に混乱をもたらしてきた。国民のいのちと健康を守るためにも、このような事態を二度と繰

り返してはならない。協会は11月1日、国の責任で「脆弱なワクチン供給体制」の抜本的な改善に取り組むことを求める緊急要望書を厚生労働大臣宛に提出した。